

環境にやさしい土づくり 日本の培土メーカーとタイ農業・協同組合省が共に園芸用有機培土の製造に挑戦 (取材歓迎・おススメ★複数あり)

独立行政法人国際協力機構(JICA)の中小企業・SDGs ビジネス支援事業にて株式会社関東農産(本社:栃木県那須町、以下「関東農産」)が実施する「品質と生産性を向上させる園芸用有機育苗培土の現地製造に係る案件化調査」を通じて2023年3月20日~23日にタイの農業開発研究センターから3名の研究員が来日します。

今回の来日に際し、関東農産の皆さんには、タイの研究員が日本での園芸培土製造において重要なポイントとなる原料と製品の物理化学性や植物生理などについて学び、タイでの園芸培土の利用と普及における基礎的知識と技術を身に付けてもらいたい、また有機肥料と微生物性についても学び、今後同国で拡大が期待される有機農業の応用に活かして欲しいという思いがあります。

案件の概要は以下のとおりです。

本調査の対象国タイは、人口6,609万人(2022年)、面積は51万4,000平方キロメートル(日本の約1.4倍)あります。タイにおける農業セクターは、国内総生産(GDP)に占める割合は約8.5%程度ではあるものの、人口の50%が農業に従事し、国土の46.5%は農業生産に利用されていることから、人々の生活や経済の向上、国土環境の保全のため、農業開発はタイ政府の経済開発上の主要な課題になっています。

関東農産は、赤玉土やピートモス、バーミキュライトを原材料として、根の育成に適した培土を製造し、国内で販売している企業です。タイでは、キャッサバやサトウキビ、ココナツの加工残渣等の未利用有機資源を現地調達し、同社の培土製造技術を用いて良質・安価な園芸用有機培土の開発・提供を目指しています。園芸用有機培土の開発に取り組むことで、タイの良質な苗生産による農産物の生産性・品質の向上と市場競争力の強化と循環型農業に寄与することが期待されます。

関東農産は、有機培土では業界で最も早く製品化・量産化に成功し、水稻用有機育苗培土の製造では特許を取得し、同技術を応用して園芸用有機培土も製造しています。

タイでは2027年までに130万人以上の農家が有機農業を実施することを目標に掲げており、その担い手として農業開発研究センターから3名が来日します。日本の培土製造技術を学び、自国に活かしていこうとする姿をぜひ取材ください。



(写真左:タイでの育苗培土の試作、写真右:育苗試験の様子)

中小企業・SDGs ビジネス支援事業の「案件化調査」とは、途上国の課題解決に貢献し得る技術・製品・ノウハウ等を活用したビジネスアイデアや ODA 事業での活用可能性を検討し、ビジネスモデルを策定するものです。

※下記日程の★マークの付いているプログラムは特に取材おススメです。記事化・提案企業への取材を希望される場合は、下記問い合わせ先(JICA 筑波)までご一報ください。

株式会社 関東農産ホームページ

<https://www.kantoh-ap.co.jp/>

参考: 中小企業・SDGs ビジネス支援事業とは

https://www.jica.go.jp/priv_partner/activities/index.html

【本件に関する問い合わせ先】	茨城県、栃木県も元気にする国際協力
JICA 筑波 連携推進課 (民間連携担当: 伏見・村上) TEL: 029-838-1117 FAX: 029-838-1119 e-mail: tbictpp@jica.go.jp	JICA 筑波ホームページ https://www.jica.go.jp/tsukuba/index.html

参考資料

<本邦受入活動日程> ※一部抜粋

日時	活動概要	実施場所
3/20 (月)	13:00～株式会社関東農産工場見学 15:00～タイでの育苗試験の振り返り	株式会社関東農産本社 〒325-0001 栃木県那須郡那須町大字高久甲字道西 2691-3
3/21 (火)	9:00～園芸培土講義 11:00～園芸培土試作・分析実習	株式会社関東農産本社
3/22 (水)	9:00～播種講義と実習、培土分析★ 13:30～ピラミッド社見学 15:00～土づくり農家訪問	株式会社関東農産本社 株式会社ピラミッド栃木工場 〒324-0505 栃木県那須郡那珂川町芳井 4-35
3/23 (木)	9:00～育苗調査、品質管理実習★ 13:00～有機肥料講義 16:00～振り返り	株式会社関東農産本社